

相模原市南区で確認したハイイロゴケグモ

秋山 幸也*¹・山尾 佳奈子*²・谷川 明男*³

*¹ 相模原市立博物館 *² 相模原動物標本クラブ

*³ 東京大学農学部生物多様性科学研究室

はじめに

ハイイロゴケグモはオーストラリア、中米、南米などに分布するヒメグモ科のクモで、国内では1995年に横浜市及び大阪府、沖縄県で発見された(夏原・西川, 2002)。本種はメスが神経毒を持ち、咬傷、中毒被害が想定されることから、環境省により特定外来生物に指定されている。今回、相模原市内において初めて本種の生息を確認したので報告する。

確認の経過

2016年9月、市民から相模原市水みどり環境課をとおして、市内南区においてゴケグモ類と疑われるクモが発見されたと情報提供があり、標本が持ち込まれた。この標本は民間の施設内での確認であったため、すぐに駆除されてつぶれた状態であった。なおかつ生殖器が形成されていない幼体であり、確実な同定ができなかった。そのため、同年10月9日に改めて施設周辺を筆者らが探索し、隣接した2か所においてヒメグモ科のメス成体(図1)、オス成体、メス幼体及び卵囊(図2)を確認し、ハイイロゴケグモと同定した。なお、本種は近縁のセアカゴケグモなどとともに「毒グモ」として広く認識されている一方で、形態や生態等に関して正確な情報が普及していない。このため、確認した地域に対する風評被害などが想定されることから、発見地点の詳細については公表を差し控える。

記 録

確認した種 ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*
C.L.Koch, 1841
(ヒメグモ科ゴケグモ属)

採集地点 神奈川県相模原市南区(確認地点は半径約300メートルのエリア内の3か所)

採集日 2016年10月9日

個体等と採集した場所の状況

メス成体(1個体) 街路灯に貼付された町名表示板の裏(図3)。

卵囊 メス成体と同所の、放置された

ブロックの隙間(図4)。

オス成体(1個体) 砂利敷き駐車場の三角コーン(傷んで穴があいたもの)内(図5)。

メス幼体(1個体) 駐車場の柵として設置されている単管パイプ内。

まとめ

本種はセアカゴケグモ等の他のゴケグモ類とともに、特定外来生物として分布の拡大が懸念されている。セアカゴケグモはすでに西日本を中心に分布を拡大し(東京蜘蛛談話会, 2015)、神奈川県内でも相模原市と隣接する大和市で複数記録されるなど東日本でも定着、分布拡大が懸念されている。今回、ハイイロゴケグモの卵囊や、複数の地点で個体が記録されたことから、定着の可能性が否めない。今後は引き続き確認地点を中心とした周辺地域において越冬状況などを調査し、分布・定着の状況を明らかにする必要があるだろう。

引用文献

夏原由博・西川喜朗, 2002. ゴケグモ類, 外来種ハンドブック(日本生態学会編) 152p. 地人書簡, 東京
東京蜘蛛談話会, 2015. 日本に上陸した有毒なクモ. クモ基本 60.26-27p, 東京蜘蛛談話会, 東京



図1 ハイイロゴケグモ (メス成体)

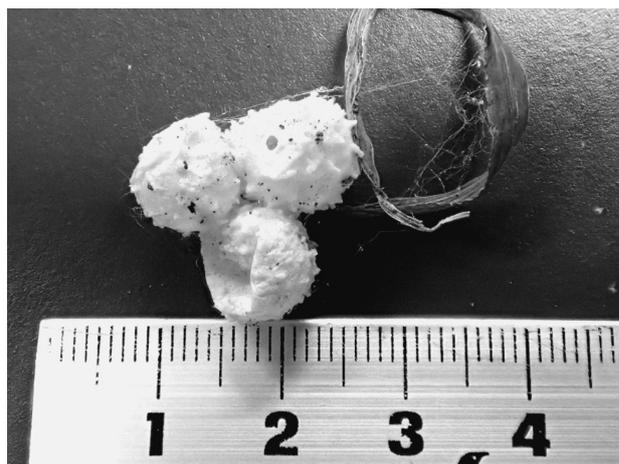


図2 卵囊



図3 メス成体を確認した町名表示板の裏



図4 卵囊がついていたブロックの隙間



図5 オス成体を確認した三角コーン